

JR東海労ニュース

No. 867
2006年 10月27日
JR東海労働組合

JR東海ユニオン指導部よ！

「テロリストキャンペーン」に躍起になる前に

労働組合としての責任はないのか！

10月25日午前10時、衆議院国土交通委員会でJR東海出身の伴野豊議員とJR西日本出身の三日月大造議員（両氏共にJR連合議員懇所属）は、JR総連とJR東労組「革マル・テロリストキャンペーン」を必死になって展開しました。

かの『週刊現代』の記事を持ち出し、「週刊誌で揶揄するつもりはない」といいつつ、「たかが週刊誌ですが、されど週刊誌」真実ならば「国家の治安問題だ」と、しどろもどろになりながら「革マル派の浸透」ということを国土交通大臣に認めさせよう、言わせようと躍起になっていたのです。

まさにその時間帯は、新幹線の死傷事故により運転を見合わせ職場は混乱し、運転再開に向け懸命の努力の最中でした。終日のダイヤの乱れによって16万人以上の乗客に影響があったといわれています。

さらに亡くなられた方は、JR東海社員であり、自らの会社の商品である新幹線で生命を絶ったということが明らかとなりました。このような事態のなかで、良くもまあ平然とテロリストキャンペーン、デマ宣伝に没頭できるものかと呆れ返ってしまいます。

まったく組合員の思いなどそっちのけということです。

JR東海ユニオン指導部よ！鉄道員がこのような道を選択せざるを得なかった悲痛な叫びを聞け！

おかかえ議員を使って

デマ宣伝を繰り返し返す暇があったら

組合員の叫びを聞け！